伊豆東部火山群の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１）

大原監視カメラによる観測では、噴煙などの表面現象は認められません。

・地震や微動の発生状況（図２、図３－①）

伊豆東部火山群付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されていません。

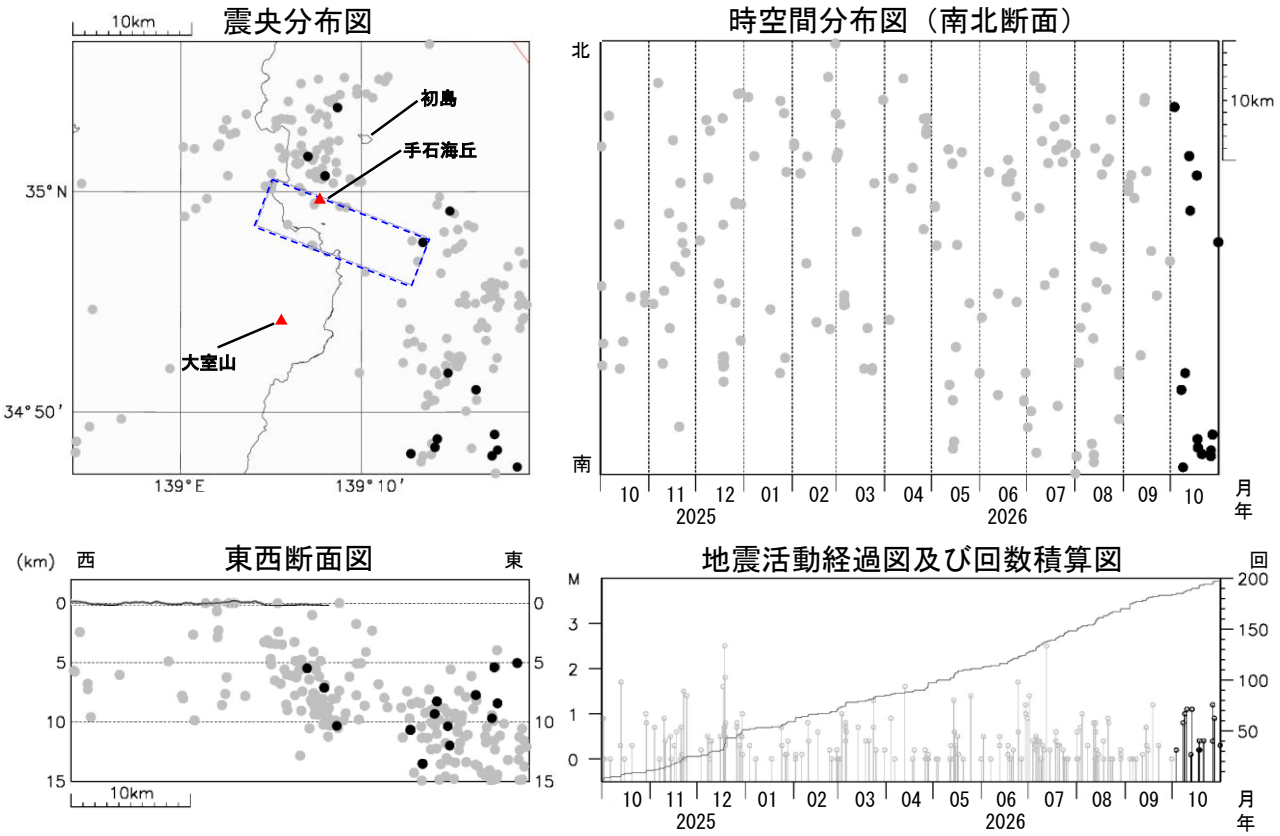
・地殻変動の状況（図３－②～⑧、図４）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図１　伊豆東部火山群　伊東市沖の状況（10 月 17 日、大原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『基盤地図情報』『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。



●：2025 年 10 月１日～2026 年９月 30 日　●：2026 年 10 月１日～10 月 31 日

図２　伊豆東部火山群　広域地震観測網による震源分布図（2025 年 10 月１日～2026 年 10 月 31 日）
□ の領域は群発地震活動の発生する可能性がある範囲（火口が出現する可能性のある範囲）を示しています。
（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level_316.pdf）
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.0 以上を表示しています。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています。

・伊豆東部火山群付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。

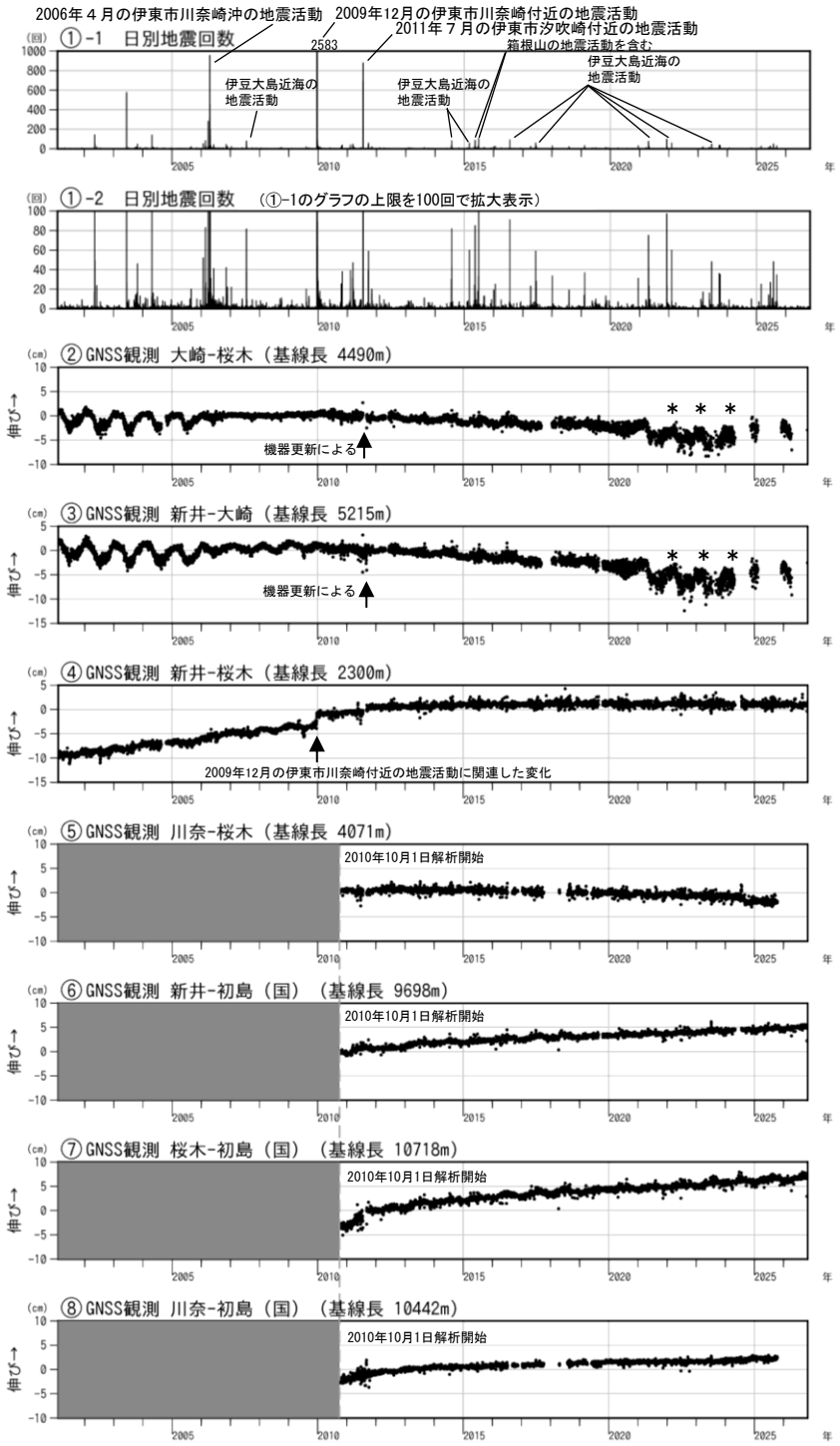
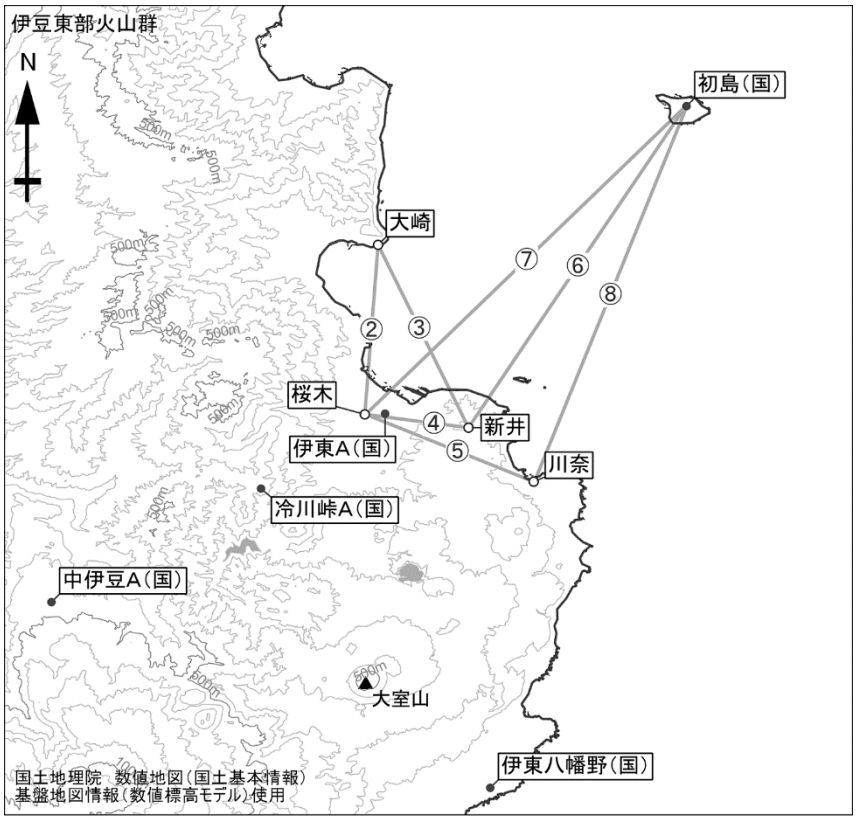


図３　伊豆東部火山群　火山活動経過図（2001 年２月１日～2026 年 10 月 31 日）

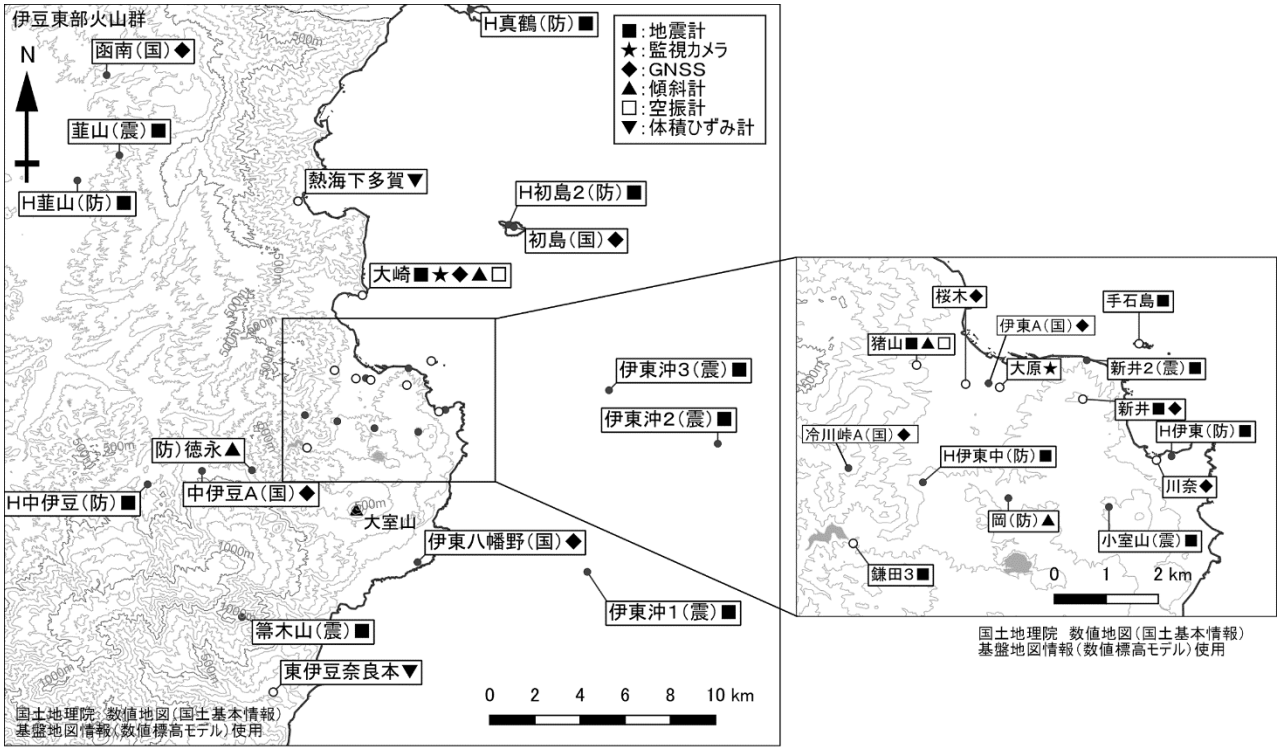
②～⑧は図４のGNSS基線②～⑧に対応。（国）：国土地理院。グラフの空白部分は欠測を示します。
データの解析方法を2010年10月及び2016年１月に変更しています。
基線長変化に見られる周期的な変動は季節変動と考えられます。
②③のGNSS基線でみられる変化（＊）は、大崎観測点に起因する変化であり、火山活動によるものではないと考えられます。

・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変動は認められません。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院

図４　伊豆東部火山群　GNSS 連続観測点配置図
図中の GNSS 基線②～⑧は図３の②～⑧に対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(震):東京大学地震研究所

図５　伊豆東部火山群　観測点配置図